義太夫協会会報
第118号
2025年1月1日
一般社団法人 義太夫協会 発行
〒104-0045
東京都中央区築地4-3-12
秀和第2築地レジデンス706号
Tel. 03（6264）3047
Fax. 03（6264）3048
http://www.gidayu.or.jp

新（あらた）しき年の初めに

義太夫協会会長　児玉　信

新年にあたり、ひと言ご挨拶を申し上げます。昨年六月に行われた理事会において皆様に御推挙いただき、原道生先生の後任として会長職を拝命いたしました。義太夫協会が社団法人として歩みだしたのは一九七〇年六月のことでした。二〇一二年には一般社団法人に移行して今日に至りますが、これまで半世紀余に亘る協会の歩みや歴代会長のお顔ぶれを振り返るにつけ、責任の重さを感じる日々です。協会設立にあたっての目的である義太夫節の向上・普及・発展に、微力ながらも寄与したい思い切なるものがあります。この場をお借りして、ご指導ご鞭撻賜りますよう心からお願い申し上げます。

ところで、私が義太夫を初めてナマで聞いたのは大学二年の時でした。当時、藝能学会の機関紙「月刊藝能」の編集を手伝っていました。藝能学会の設立には国学者・民俗学者・歌人として知られる折口信夫が深く関わっており、「月刊藝能」は〝日本芸能の民俗学的研究や芸能学の確立と、併せて広く現代の芸能を研究・調査・評論する芸能文化の綜合誌〟であることを標榜していました。結果的に私は能・狂言に深入りすることになりますが、演劇・舞踊・邦楽・洋楽・民俗芸能等々の多岐にわたる執筆者に啓発されて様々な芸能に親しむことになります。こうした中で、特に予備知識もないまま見に行ったのが文楽でした。一九六七年九月、開場して一年が経とうとしていた国立劇場での昼公演。演目は『伽羅先代萩』『心中宵庚申』でしたが、とりわけ『心中宵庚申』道行の場で劇的世界に引き込まれ、良いなァ、と感銘を受けたことを忘れません。こんど久しぶりに「床本集」を開くと観覧券と新聞評が挟んでありました。学生割引七〇〇円。評者は秋山安三郎氏。余韻の証です。

以後、文楽に足を運ぶようになりましたが、女流義太夫を知るのはずっと後のことです。本牧亭社長であった清水基嘉氏が藝能学会の会員で、折々は編集室に顔をみせることもあったことを思うと、本牧亭時代を見過ごしたのが悔やまれます。そういえば、一九九四年に国際交流基金が行った〈三大伝統演劇欧州公演〉で竹本綾太夫氏とご一緒したのが義太夫協会を知る契機となりました。私は二〇一三年五月に協会監事を仰せつかりましたが、綾太夫氏は直前に鬼籍に入られて親しくお話しを聞く機会が失われたのは残念です。この十年間の斯界の変化を綾太夫氏はどのように思うか、聞いてみたい思いに駆られます。

二〇二〇年一月に起きたコロナ禍は、ようやく終息に向かっているようです。見る限りですが、客席の様子もコロナ前に戻ってきた感じがあり、ご同慶の至りです。ただ、国立劇場はじめ閉場する施設が一気に出てきて、協会事務局も演奏会場の確保に苦労しています。今年度も演者・お客様双方に負担を強いることになりますが、御寛如のほどを願いあげます。

今年の干支は巳。つまり蛇です。脱皮を繰り返すことから生命力・再生のシンボルとみなされています。また、白蛇は学問・芸術の守護神弁才天の使わしめとして信仰されてきました。弁才天を弁財天と表記するときは金運とも結びつくとか。末筆ながら、芸能にとって、皆さんにとって、実りある年であるよう祈ります。

一九四六年、浜松市生まれ。藝能学会副会長。（公財）日本伝統文化振興財団常任理事。石川県音楽文化振興事業団邦楽プロデューサー、文化庁芸術祭「演劇部門」審査委員など歴任。著書に『ぶらり東海道 五十三次芸能ばなし』『能舞台 歴史を巡る』など。

〈目次〉

新しき年の初めに　……1
通常総会開催と役員選任　……2
祖先祭／義太夫教室第七六期
十一代豊竹若太夫襲名公演　……3
竹本葵太夫紫綬褒受章／竹本越孝旭日双光受章
新入正会員紹介 竹本孝之資／鶴澤朔弥
二度目のメリヤス／六月公演「チャリ」……4
七月公演「名優の当たり役③」／文化庁芸術祭連携公演
第五三回邦楽演奏会／糸あやつり人形一糸座 学校巡回公演
女流義太夫アメリカ公演／ひとみ座乙女文楽台湾公演……5
〈義太夫とわたし〉「夢への扉を開いた一日体験教室」
「邦楽いろいろお手伝い」という仕事
名優と義太夫節【第八回】十八世中村勘三郎　……6
初代竹本綾之助 生誕一五〇年によせて……7
協会・正会員の主な動き／今後の動き　……9

通常総会開催と役員選任

昨年六月二四日、築地社会教育会館において、通常総会が開催されました。当日は左記の議案が付議され、いずれも承認されました。

第一号議案　二〇二三年度事業報告
第二号議案　二〇二三年度決算報告
第三号議案　二〇二四年度事業計画
第四号議案　二〇二四年度収支予算
第五号議案　任期満了に伴う理事選任
第六号議案　監事選任

新役員（役職別 本名五十音順）

代表理事：児玉信
理事：上田悦子（竹本駒之助）
小島美恵子（竹本土佐恵）
高橋孝子（竹本越孝）
立花繭子（鶴澤津賀寿）
林ミチヨ（竹本土佐子）
柳瀬信吾（竹本葵太夫）
監事：加納マリ、矢内賢二

祖先祭　～原道生先生を偲んで～

昨年十一月四日に、回向院にて祖先祭が開催されました。

当月は、協会の会長として長年ご尽力頂いた原道生先生の一周忌にあたり、奥様の利子様とお嬢様の朋子様がご臨席のもと、法要と墓参のあと本堂の二階にて先生を偲ぶひと時を持ちました。

奥様のお話ですと、先生は義太夫の会に行くことをとても楽しみにしていらっしゃり、背広に着替えると、義太夫の会に出かけるのだとすぐわかったとか。又、たいへんな酒豪でブラックユーモアの人だったそうです。

当日、特別会員の宮下孝弘様が先生の著書「近松浄瑠璃の作劇法」（八木書店）をご持参になり、先生との思い出話をご披露下さいました。奥様とも著書について、いろいろとお話が弾み、皆も「ぜひ読ませて頂きたい！」と盛り上がりました。先生とのご縁が続いていく予感のする偲ぶ会でした。

コロナ禍の折は、先生がお一人で代表してお参りして下さった祖先祭。これからも私共で大切にしていかなければと思いました。

（総務部 竹本佳之助）

義太夫教室　第七六期

義太夫教室は昨年五月十一日に第七六期入門コースが開講、七月二十日に閉講式を行いました。九月七日より実践コースが開講中です。語りコースは竹本越若講師が『仮名手本忠臣蔵』裏門の段、竹本越京講師が『卅三間堂棟由来』木遣音頭の段を稽古しています。三味線の講師は鶴澤駒治です。

本年三月二十日の月島社会教育会館ホールでの卒業発表会に向けて、稽古に熱が入っています。五月より第七七期教室を開講予定です。

入門コースの様子　豊川稲荷文化会館にて

十一代目豊竹若太夫襲名公演

昨年四月六日、国立文楽劇場前の桜が咲き誇る中、十一代目豊竹若太夫襲名公演が賑やかな初日を迎えました。若太夫師匠が選んだ襲名披露狂言は、初代そして先代の豊竹若太夫ゆかりの『和田合戦女舞鶴』市若初陣の段。大阪では五九年ぶりの人形入りでの上演で、板額を遣う桐竹勘十郎師は初役。また、若太夫筆頭弟子の希太夫が語った端場は八四年ぶりの復活、と意欲と話題に富んだ公演となりました。「ほんのほんの本ぼんの子ぢやわいなう」の箇所では連日拍手が沸き起こり、客席にも期待と熱気が溢れていました。五月の東京公演も西新井大師で成功祈願法要とお練りが行われるなど、大いに盛り上がりました。

襲名披露口上では、ユニークなエピソードの数々に笑いが起こる中、竹澤團七師が最後列に並んだ弟子一同を前に、文楽後進への応援を呼び掛けられ、場内が温かさに包まれたのが印象的でした。大名跡襲名とは、文楽や義太夫を未来に繋ぐ、という大きな使命を背負う決意表明なのかもしれません。

（豊竹呂秀）

竹本葵太夫　紫綬褒章受章

金田中にて

竹本葵太夫が二〇二四年春の叙勲において、歌舞伎竹本で初の紫綬褒章を受章しました。

葵太夫は一九六〇年大島町生まれ、一九七六年竹本越道師に入門、一九七九年初舞台。二〇一九年重要無形文化財各個認定(人間国宝)認定。二〇二一年に日本芸術院賞を受賞しています。「これまで師匠方が積み重ねてこられた業績に対する評価を私が代理で受け取らせていただく：という気持ちです。自身の研鑽はもちろんのこと、優秀な後継者を一人でも多く遺すべく精進いたしてまいります」と述べています。

竹本越孝　旭日双光章受章

竹本越孝が二〇二四年春の叙勲において、旭日双光章を受章しました。越孝は一九七二年竹本越道に入門、一九七四年初舞台。二〇〇〇年に重要無形文化財「義太夫節」総合認定保持者認定。二〇一九年伝統文化ポーラ賞優秀賞受賞。二〇二〇年文化庁芸術祭賞優秀賞受賞。近年は後進の指導の他「越孝の会」で意欲的な試みを行い海外公演にも多数参加しています。

五月十三日
ホテルニューオータニ

新入正会員紹介

竹本孝之資（たけもと　たかのすけ）

二〇一五年、国立演芸場「女流義太夫演奏会十月公演」の長唄『景清』でワキ三味線を務める（長唄東音会三味線方東音河野文）。二〇一六年二月、竹本越孝師に入門。二〇二四年、「女流義太夫演奏会三月公演」『卅三間堂棟由来 木遣音頭の段』にて初舞台。

この度は歴史ある義太夫協会への入会をお許しいただき心より御礼を申し上げます。未熟者ではありますが御師匠様方、先輩方の素晴らしい技芸を学び生涯をかけて精進致します。義太夫協会の皆様、関係各位の皆々様、今後共宜しくお願い申し上げます。

鶴澤朔弥（つるざわ　さくや）

二〇〇一年、竹本弥乃太夫師に入門。二〇二四年、「女流義太夫演奏会八月公演」『釣女』にて初舞台。

この度は歴史ある義太夫協会の正会員に加えていただき、ありがとうございます。御師匠様方や諸先輩方にご指導いただける環境に感謝を忘れず、懸命に精進する所存でございます。義太夫協会および関係各位の皆様、何卒よろしくお願い申し上げます。

二度目のメリヤス

昨年四月公演で「メリヤスって何？」と題した解説をつとめさせていただきました。一昨年に引き続き二回目になります。メリヤスとは繰り返し演奏できる三味線の短い音節です。その語源は諸説ありますが、人形浄瑠璃の人形の動きや義太夫の語りに合わせて伸縮自在であることがメリヤスの役目であることを考えると、伸縮性の高いメリヤスの編地に例えられたことに合点がいきます。さて、それではどんな形で演奏されるのでしょうか？詞だけのところでＢＧＭのように、人形の動きだけのところでリズムを表すように演奏されます。いかがでしょうか？三味線への興味が深まることになれば幸いです。（鶴澤津賀榮）

六月公演「チャリ」

昨年六月二一日の公演は「チャリ」（ティアラこうとう小ホール）。チャリとは義太夫には珍しく面白味の強い曲のこと。本筋にはあまり関係ないため上演機会が少なく、何とか公演に結び付けたいと企画しました。まず「笑い薬」（京之助・三寿々）。太夫が笑う様子だけで客席が湧く楽しい曲です。続いて普段と逆に笑いの中に唯一のシリアス、「組討」（越京・津賀花）。最後の「宝引」（越若・津賀榮）では、その大胆なパロディが展開され、二曲続けて聴くおかしさたるや！公演タイトル通り「抱腹絶倒」の一夜でした。（公演部　鶴澤賀寿）

七月公演「名優の当たり役③」

「名優の当たり役」三回目は昨年七月十九日、ティアラこうとう小ホールにて開催されました。テーマはシリーズ初の女方、六代目中村歌右衛門。お話の鈴木英一さんは演奏家・常磐津和英太夫としての一面も感じさせる、歌右衛門のセリフの音感についてなど、興味深いエピソードを披露してくださいました。演奏は当たり役「時姫」に因み「三浦別れ」（越孝・駒治）、「お紺・万野」に因んだ「油屋」（土佐子・三寿々）、「お三輪」の「金殿」（綾之助・津賀花）。「名優の当たり役」四回目は四月二三日、テーマは十五代目市村羽左衛門の予定です。ご期待ください。（公演部　鶴澤賀寿）

文化庁芸術祭連携公演

二〇二四年度（第七九回）文化庁芸術祭の連携公演として、「女流義太夫演奏会」十月公演・十一月公演が選ばれました。十月公演では「月」と題して『双蝶々曲輪日記』引窓の段ほか、十一月公演では『新版歌祭文』野崎村の段ほかを上演しました。連携公演は、文化庁と連携公演実施団体が広報宣伝において連携し、双方にプロモーションを強化し芸術祭の意義を一般に普及させることにより、我が国文化の向上と振興に資することを目的としたもので、二〇二四年度の新たな取組として実施されました。（公演部　竹本越里）

第五三回邦楽演奏会

昨年三月十六日に、「第五三回邦楽演奏会」がイイノホールにて開催されました。

第一部「親子で楽しむ邦楽演奏会」に鶴澤津賀花が出演し、各ジャンル七挺の三味線でトトロの『さんぽ』を合奏しました。

第二部では竹本駒之助と鶴澤津賀寿が『壺坂観音霊験記　沢市内の段』を演奏し、両人間国宝の名演に客席は感動のため息に溢れました。

本年は三月八日（土）、タワーホール船堀にて第五四回を開催予定です。テーマは「水」、様々なジャンルの演目をどうぞお楽しみに。

糸あやつり人形一糸座　学校巡回公演

二〇二四年度、「舞台芸術総合支援―学校巡回公演―」で糸あやつり人形一糸座の公演に、竹本越孝・竹本綾一・鶴澤三寿々・鶴澤津賀榮が参加し、十月から十一月にかけて千葉県・茨城県・東京都・山梨県内の五校を回りました。四演目の内、「東海道中膝栗毛　赤坂並木より卵塔場」「橋弁慶」「櫓のお七」を演奏しました。

生徒さん達は、面白い場面では声を出して笑い、お七の着物の引き抜きや雪の降る場面では大きな拍手がおこり、この経験をずっと忘れないでほしいと思うばかりです。（竹本綾一）

女流義太夫アメリカ公演

二〇二四年四月三日から五日、竹本越孝、鶴澤三寿々がミネソタ大学に招聘され、ゲストで女流義太夫のレクチャーを行った他、ワークショップや、ミニ演奏会が開催されました。学生との意見交換も活発に行われ、本年四月には本格的な女流義太夫リサイタルが行われる予定です。

（鶴澤三寿々）

ひとみ座乙女文楽　台湾公演

コロナ禍で四度の延期を経て、二〇二四年五月に無事開催されました。竹本土佐子、竹本越孝、鶴澤駒治、鶴澤津賀花が参加し、『傾城阿波の鳴門順礼歌の段』『増補大江山酒呑童子戻り橋の段』を上演しました。

会場の衛武營國家藝術文化中心（国立劇場）に三日間、連日七〇〇名のお客様が来場し、熱のこもった応援に一同、胸を熱くしました。

（鶴澤津賀花）

シリーズ　義太夫とわたし

「夢への扉を開いた一日体験教室」

私は福島県伊達郡国見町で生まれました。一八六四年生まれの曽祖母は初代野澤喜左衛門師のお弟子さんの出稽古を受け、喜佐國という名前をいただいたそうです。曽祖母から稽古を受けた祖母が、素人さんに語りを教えているのを日常的に聞いて育ちました。ある日、二歳上の姉が祖母から三味線の手ほどきを受けることになり、私も習いたいとお願いしましたが、まだ小さいから駄目と言われ、そのことだけはずっと忘れずにいました。

小学生の時にお箏を少し習いましたが、二十歳で上京してからは邦楽からすっかり離れた生活でした。ある時ふとインターネットで「三味線」を検索すると義太夫協会一日体験教室がヒットして速攻で申し込み！二〇一八年に晴れて七一期生となりました。

卒業後は鶴澤津賀榮先生に弟子入りし、現在も形見の三味線でお稽古を続けています。お稽古を始めた頃はバチを持つのも痛くて、何より正座ができずどうなることかと思いましたが、津賀榮先生をはじめ多くのお師匠様や諸先輩の皆様の励まして、なんとか続けることができています。

三味線はとても奥深く難しい楽器ですが、幼い日の夢が叶い、今三味線と共にある時間が何よりも尊いです。先生方の素晴らしい演奏を拝聴し日々充電しています。これからも「義太夫節」をずっと応援していきたいです。

（義太夫教室第七一期　山本登喜子）

「邦楽いろいろお手伝い」という仕事

大森美樹

もともと私は西洋音楽の人間で、國學院大學の日本文学科卒。大学で三曲サークルに入り、卒業後弟子入りした。たまたま現代曲の先生から、ビクター伝統文化振興財団（現日本伝統文化振興財団）が職員を探している、という話があり、ビクター財団に入社。CD制作をしていた。出張録音も多く、そのためケーブルの8の字巻ができるようになった。担当した人の公演では音のチェック、緞帳の合図出しをするようになった。

二〇〇七年に財団をやめることになったが、かなり先まで公演のお手伝いが決まっていたため、普通に勤める事が出来ず、フリーになった。CD制作以外もやることになり、もはや何をしている人なのか自分でもわからないので「邦楽いろいろお手伝い」というオリジナルの肩書にした。

私の仕事の殆どは三曲と女流義太夫関係だ。義太夫協会では現在は在宅でできることをさせてもらっている。また鳥居誠さんとSEIBI工房として毎月の公演の記録録音をしている。三曲は秋にリサイタルをやる人が多いので忙しい。たまに受付をやるが、最近は殆ど舞台進行だ。私には後輩がいない。二五年以上一番下っ端である。でも舞台設営ができて、毛氈が巻けて、ケーブルが巻けて、受付も舞台

進行もできる奴は多分私しかいない。

私は舞台の仕事が好きだ。舞台進行で気をつけることは、実演家が演奏に集中できる環境を作ること。音が良く聞こえるようにすること。舞台は見た目も大事ということ。スタッフとの信頼関係を作ること。受付は公演の「顔」だという自覚。裏方も後継者不足だ。使える子がいても、殆ど実演家で「演奏諦めて裏方やらない？」とは言えない。「邦楽いろいろお手伝い」は本当に何でもやらないといけない。主役は実演家。実演家が舞台で素敵で立派に見えるようにお手伝いするのが仕事だ。

連載　名優と義太夫節

【第八回】十八世中村勘三郎

父十七世同様に幅広い当り役を持っていた十八世勘三郎は、歌舞伎にとどまらず、多種多様な分野で大活躍をした。

十七世存命中は「そのやり方…イヤですね。やるんならあたしが死んでからにしておくれ」と伝統歌舞伎の指導をみっちり受けた。十七世は本行に凝っていたので十八世も稽古を受け「佐太村」の梅王のセリフを本行のコトバのイキでやった。稽古場で「いつもの歌舞伎のイキと違う」と白太夫役の羽左衛門が一言一句直しにかかったが、そのうちあきらめてしまった。

十七世没後は「コクーン歌舞伎」や「平成中村座」を立ち上げ、歌舞伎の新しい見せ方を次々に世に出した。

俳優には「父の代からの方に引き続き語っていただきたい」という墨守派と「自分の考えをなんでも反映して語ってくれる人がいい」という創造派があるが、勘三郎は後者で、竹本清太夫を起用した。清太夫は文楽時代の師である十世豊竹若大夫のように体当たりの芸で「清さんの浄瑠璃にはハートがある」と好んだ。その反面、気に入らないと厳しい口調で駄目出しをしたが、清太夫は「ハア…ハイ」といちおうは聞くものの、舞台ではやはり自分の語り方を全精力をふりしぼって押し通していた。珍品として「野田版　研辰の討たれ」の「物語」がある。大真面目で大時代の清太夫の語りと、それに反応する勘三郎のギャグは絶後と言えよう。

「勘九郎の会」という勉強会で、歌右衛門指導による「合邦」の玉手御前を出すことになった。筆者は「葵さんはインギンだから注文しづらい」と陰で言われていたらしいが、当時歌右衛門が起用していたので請われて勤めた。「清さん、いいんだけどね、こういうものはあなたでなきゃダメッ！」。…俳優は勝手なものである。ということで歌右衛門宅の稽古に同行した。このとき勘三郎の教わり上手なのに驚いた。歌右衛門の気に入らない箇所は「おじさま、こうでしょうか？」と愚直に何度でもやり直した。そのうち「違うね」と言っていた歌右衛門が立ち上がって「こうだよ」とやって見せると、裾引き衣裳の中の足さばきが原因とわかった。「おじさま、ありがとうございます！」「こういうことはビデオではわからないだろ」「ハイッ！」…という調子で進行した。同時期に、ある俳優がやはり歌右衛門の指導を受けるのに同行したが、こちらは歌右衛門より先回りしてサッサと演じてしまうので、明らかに歌右衛門の機嫌が悪いのがわかった。勘三郎は本名の哲明（のりあき）から「のりちゃん」と親しまれたが、歌右衛門は「のりちゃん、器用になってはいけないよ」と言いながらも、自身の芸を慕い、あえて苦手分野の役に挑む勘三郎に、培ってきた玉手を細かく伝授した。

「勘九郎の会」当日となり「あなたね、よくわかっているんだから違うところがあったら言ってよ。たのみますよ」とのことで、幕になってから何箇所か申し上げた。「そうっ！そうなんだ。廻るとこぼくが遅かったね。夜の部はちゃんとやるからね！」。

勘三郎は天性の優れた芸感に加えて人間的魅力を兼ね備えていたので人が寄ってきた。また人の顔と名前をよく記憶していた。憶えてもらっていた本人はおおよろこびである。

後年、大阪のバーで行き合せ「義太夫語りっ！一緒に飲もう」と終始芝居の話で深夜に及び、なぜか手をつないで宿舎の前までお送りした。玉手伝授の話になり「おじさまから教わった玉手は宝物。ぼくにやれっていう人はいないだろうから（本公演で）出さないけど、誰か教わりにきたらきちんと教えてあげる自信はあるよ」。

演じも教えもなさらぬまま五七歳で逝かれた。言葉がない…。

＊文中敬称を略しました。

（歌舞伎義太夫・太夫　竹本葵太夫）

初代竹本綾之助　生誕一五〇年によせて

女流義太夫研究家　水野悠子

本年は、女義の歴史における最重要人物、初代竹本綾之助の生誕一五〇年にあたります。

女性が義太夫を語り始めたのは江戸時代中期でしたが、人気が出て注目されたがゆえに、繰り返し禁止令が出され、天保の改革では牢に入れられる者もありました。逆境にもめげず生き残った江戸の女義と、維新後、続々と上京してきた関西の女義は、徐々に東京の寄席に出て活動し始めます。

大阪出身の竹本東玉、名古屋出身の竹本京枝ら実力者が地歩を固めたところへ、明治二十年（一八八七）、大阪からやってきた十二歳の少女がザンギリ頭でデビューすると、男か女かと話題になり、満都の娘義太夫人気に火がつきました。この彗星のように現れた少女こそ、一五〇年前、明治八年（一八七五）六月に生まれた初代竹本綾之助だったのです。

綾之助錦絵（ザンギリ頭）明治20年
（和田博氏旧蔵）

幕末に苦境に陥った女義が、明治期に隆盛を迎えたのは、「芸は東玉、株は京枝、人気は綾之助」と謳われた三者の功績とされ、彼女たちは「女義中興の祖」と位置づけられています。東玉の本格的な芸の力と、京枝の統率力とプロデュース能力に、綾之助の圧倒的な人気が加わって、歴史的な娘義太夫ブームが生まれたのでしょう。

綾之助の人気を物語る言葉が数多く残されています。

「帝都の人気を一身に集めた」「いやはや大層な人気でクルマ（人力車）の後押し志願の学生多数」「歌舞の菩薩の来迎」「一世の風雲児」「明治芸壇の花」「芸壇の奇跡」「麒麟児」「人気のクイン」「空前の人気者」「女一代のうちに、あれくらいの人気を博し、あれくらい騒がれれば女冥利」等々。

ところが、十年にわたってトップスターの座を守り、「空前絶後」「前代未聞」の人気を誇った綾之助は、ファンの一人と結婚するため、明治三一年（一八九八）あっさりと引退してしまいます。

綾之助写真（髪がのびた十代の頃）
（和田博氏旧蔵）

その後、ドースル連の社会問題化、女義の分裂騒動などが起こり、明治四一年（一九〇八）引退から十年で、綾之助は芸界に復帰します。カムバック後も綾之助の人気は健在で、明治四五年（一九一二）、二十五回にわたって『国民新聞』に綾之助の半生が連載され、三か月後には『竹本綾之助艶物語』として単行本も売り出されました。

やんちゃだった子ども時代から結婚までのあれこれ、売り出しからカムバックまでの経緯、夫の仕事や仲間の女義の噂話など、虚実入り交じった半生記です。連載の第十七回「取消屋と云ふ異名」には、新聞にあらぬ噂を載せられる度に、綾之助が訂正を求めたことから「取り消し屋の綾之助」というあだ名がついたと書かれています。人気者ゆえに新聞投書欄の標的にされたり、過激なファンにつきまとわれる等、現代のアイドルの受難を、綾之助は百三〇年も前に経験していたのでした。当時の女義たちは、プライバシーとかハラスメントという言葉すらない時代に生きていたことを実感させられる「艶」物語です。

綾之助の錦絵や写真を収集された郷土史家の和田博氏は生前「八方手を尽くしてようやく新聞の切り抜きを手に入れた」とうれしそうに話していらっしゃいました。私は『竹本綾之助艶物語』をコピーするため国会図書館に日参したのですが、今では、国会図書館のホームページで簡単に読めるようになっています。

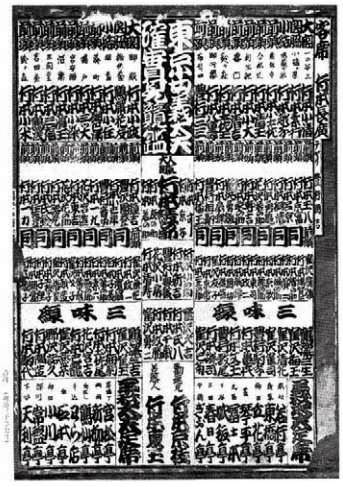
カムバック後の絵葉書（模様は藤菱紋）
（和田博氏旧蔵）

大正期になると、綾之助は自身の家紋・藤菱に因んだ「藤菱会」という一門会を組織し、後進に道を開きます。大正末に始まったラジオにも藤菱会として出演し、綾之助作の「かちかち山」などを放送しています。「かちかち山」の床本は、初代の直弟子であった三代目から現・四代目に引き継がれ、鶴澤三寿々の節付けで復活演奏されるようになりました。

ラジオの放送風景（野崎村掛合）昭和３年
前列　右から三人目が初代綾之助
五人目は綾枝、のちの三代綾之助
（義太夫協会提供）

明治・大正期、娘義太夫の人気番付を見ると、引退中の十年間は別として、綾之助の名は中央最上段にひときわ大きな文字で書かれるのが常でした。昭和になると「取締」「元老」というベテラン扱いになり、十年頃から名前が見当たらなくなりました。初代綾之助が永眠したのは、昭和十七年（一九四二）一月三一日、享年六七歳でした。

綾之助は、爆発的な人気で女義の歴史を変えましたが、それだけでなく、弟子を育て、長期にわたり女義の世界に君臨し続けました。敬意を表し感謝したいと思います。



「東京女義太夫確実見競鑑」明治30年
（「女義中興の祖」が載った人気番付）

中央最上段　人気大関　竹本綾之助
中央下段　勧進元　竹本　京枝
差添人　竹本　東玉　（和田博氏旧蔵）

二代綾之助は、戦後の本牧亭女義公演を定着させた功労者でした。初代の顕彰碑建立を願っていましたが、昭和三四年（一九五九）急逝されたので、三代目がその遺志を継ぎ、昭和四三年（一九六八）、初代の菩提寺・榧寺（かやでら）に「初代竹本綾之助之碑」を建立しています。

初代竹本綾之助之碑
榧寺　台東区蔵前３―22―９
（都営大江戸線蔵前駅Ａ６出口）

娘義太夫として豊聲美貌満都を風靡した明治の代表的佳人初代綾之助を追想追慕し明治百年を記念して
三代目綾之助この顕彰碑を建立

三代目の門人・綾一の四代目襲名披露は、平成十四年（二〇〇二）一月、国立演芸場で行われました。ロビーも超満員、通路まで立ち見でいっぱいになったのは、綾之助という名前の偉大さと、四代目への期待の大きさを物語るものでしょう。顕彰碑は、榧寺の門を入ってすぐ左側、初代の墓と共に四代目が大切に守っていらっしゃいます。

＊

初代竹本綾之助生誕一五〇年記念公演は、六月十三日（金）十八時三十分　紀尾井小ホールで開催予定です。

■協会・正会員の主な動き■

二〇二四年一月～十二月

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催

・「女流義太夫演奏会」
一月十八日　深川江戸資料館小劇場
二月十五日　深川江戸資料館小劇場
三月二十日　紀尾井小ホール
四月二六日　ティアラこうとう
五月二四日　深川江戸資料館小劇場
六月二一日　ティアラこうとう
七月十九日　ティアラこうとう
八月三一日　紀尾井小ホール
九月十八日　お江戸上野広小路亭
十月十九日　お江戸上野広小路亭
十一月二二日ティアラこうとう
十二月十五日紀尾井小ホール
※十月、十一月は文化庁芸術祭連携公演

協力

・「じょぎ」お江戸上野広小路亭
三月一・二日、五月一・二日
七月一・二日、九月一・二日
十一月一・二日
・「ぎだゆう座」お江戸上野広小路亭
二月一・二日、四月一・二日
六月一・二日、八月一・二日
十月一・二日、十二月一・二日
・「花のように香れ　女流義太夫」
第二一回　二月十八日
第二二回　九月八日
蕨市立文化ホールくるる
・「第五三回邦楽演奏会」
三月十六日　イイノホール

後援

・「女流義太夫演奏会　瑠璃の会　第8回」
三月二日　国立文楽劇場小ホール
・「第二回横須賀女流義太夫演奏会」
六月三十日　横須賀芸術劇場
・「大阪女義復興プロジェクト二〇二四」
はじめての義太夫体験教室
八月三日・四日（各日二回）
高津宮　末広の間
・「第十五回竹本土佐恵の会」
九月十六日　内幸町ホール
・「女流義太夫　涙と笑い5」
十一月十五日　浅草公会堂第2集会室

依頼

・「乙女文楽第十三回公演」
一月二十日・二一日
川崎市国際交流センターホール
・「日本傳統戲曲《瞳座乙女文樂》台湾公演」
五月十七日～十九日
・「新説　浄瑠璃姫物語　続」
十月十二日　岡崎城二の丸能楽堂

【普及】

義太夫節保存会・義太夫協会主催教室

◆義太夫一日体験教室
二月二四日　豊川稲荷文化会館
四月二十日　豊川稲荷文化会館
八月十八日　芸能花伝舎
◆第七五期義太夫教室
〔実践コース後期〕一月～三月（各土曜）
豊川稲荷文化会館
◆第七五期義太夫教室卒業発表会
三月九日　浅草公会堂第2集会室
◆第七六期義太夫教室
〔入門コース〕五月～七月（各土曜）
豊川稲荷文化会館
〔実践コース前期〕九月～十二月（各土曜）
豊川稲荷文化会館

【放送・放映】

◆NHK FMラジオ「邦楽のひととき」
二月十二日
『迎駕籠野中井戸』聚楽町の段
浄瑠璃：竹本土佐恵　三味線：鶴澤駒清
五月二十日
『絵本太功記』妙心寺の段
浄瑠璃：竹本越孝　三味線：鶴澤駒治
六月十七日
『一谷嫩軍記』組討の段
浄瑠璃：竹本越京　三味線：鶴澤三寿々
九月十七日
『仮名手本忠臣蔵』勘平腹切の段
浄瑠璃：竹本越若　三味線：鶴澤賀寿
十月二八日
『菅原伝授手習鑑』松王屋敷の段
浄瑠璃：竹本土佐恵　三味線：鶴澤駒清
十二月十六日
『奥州安達原』袖萩祭文の段
浄瑠璃：竹本土佐子　三味線：鶴澤津賀花

◆ＮＨＫ ＦＭラジオ「邦楽百番」
五月二十九日
『恋女房染分手綱』重の井子別れの段
浄瑠璃：竹本駒之助　三味線：鶴澤津賀寿

■協会・正会員の今後の動き■

二〇二五年一月～十二月

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催

・「女流義太夫演奏会」「義太夫節演奏会」
一月十五日（水）ティアラこうとう
二月十六日（日）紀尾井小ホール
三月十九日（水）ティアラこうとう
四月二三日（水）ティアラこうとう
五月二十日（火）深川江戸資料館小劇場
六月十三日（金）紀尾井小ホール
七月十七日（木）ティアラこうとう
八月十七日（日）渋谷区文化総合センター
大和田伝承ホール
九月十五日（月祝）深川江戸資料館小劇場
十月十六日（木）ティアラこうとう
十一月十七日（月）深川江戸資料館小劇場
十二月二一日（日）深川江戸資料館小劇場

協力

・「じょぎ」お江戸上野広小路亭
三月一・二日、五月一・二日
七月一・二日、九月一・二日
十一月一・二日
・「ぎだゆう座」お江戸上野広小路亭
二月一・二日、四月一・二日
六月一・二日、八月一・二日
十月一・二日、十二月一・二日
・「花のように香れ 女流義太夫」
第二三回 二月十一日（火祝）
第二四回 六月十五日（日）
蕨市立文化ホールくるる
・「第五四回邦楽演奏会」
三月八日（土）タワーホール船堀

後援

・「京之助の会」
一月二五日（土）・二六日（日）
両国回向院念仏堂ホール
・「古民家で娘義太夫 vol.3 問室」
二月二二日（土）・二三日（日）
・「女流義太夫演奏会 瑠璃の会 第9回」
三月一日（土）国立文楽劇場小ホール
・「第十六回竹本土佐恵の会」（調整中）
・「女流義太夫 涙と笑いシリーズ」
秋ごろ 浅草公会堂第2集会室（予定）

依頼

・「乙女文楽第十四回公演」
二月一日（土）・二日（日）
川崎市国際交流センターホール
・「奈佐原文楽」
二月十一日（木祝）鹿沼市民文化センター
・国民文化祭「全国人形芝居フェスティバル」
十月十八日（土）・十九日（日）
波佐見町総合文化会館

【普及】

義太夫節保存会・義太夫協会主催教室

◆第七六期義太夫教室
〔実践コース後期〕一月～三月（各土曜及び木曜夜一回）
豊川稲荷文化会館
◆第七六期義太夫教室卒業発表会
三月二十日（木祝）月島社会教育会館
◆第七七期義太夫教室
〔入門コース〕五月～七月（各土曜）
〔実践コース前期〕九月～十二月（各土曜）
ともに豊川稲荷文化会館

【放送・放映】

◆ＮＨＫ ＦＭラジオ「きき初め邦楽特選」
一月一日（元日）
『新版歌祭文』野崎村の段
浄瑠璃：竹本駒之助
三味線：鶴澤津賀寿　ツレ：鶴澤津賀佳
◆ＮＨＫ ＦＭラジオ「邦楽のひととき」
一月二十日（月）
『烏帽子折茛源氏』伏見の里の段
浄瑠璃：竹本綾之助　三味線：鶴澤津賀花

■寄付・寄贈■

左記のご寄付・ご寄贈を頂戴いたしました。誠に有難うございました。（五十音順掲載）

寄付　鶴澤津賀寿様（二〇二三、二〇二四年）
日本素義会様

寄贈　菊池常元様　撥二挺

GK-009

義太夫協会音源シリーズ（八）

昭和三十四年一月一日　本牧亭にて収録

近頃河原の達引
堀川猿廻しの段

二代目 竹本綾之助

鶴澤 三生

義太夫協会音源シリーズ（八）好評発売中！

昭和３４年１月１日本牧亭にて録音

近頃河原の達引 堀川猿廻しの段

浄瑠璃 ： 二代目竹本綾之助（演奏当時：満77歳）
三味線 ： 鶴澤三生（演奏当時：満55歳）
ツ　レ ： 不詳（鶴澤駒登久か）

〈義太夫協会記録音源復刻オンデマンド CD〉全１２タイトル
壺坂観音霊験記・新版歌祭文・絵本太功記・御所桜堀河夜討/伊賀越道中双六
生写朝顔話・艶容女舞衣・義経千本桜・近頃河原の達引・ひらかな盛衰記
伊賀越道中双六/花上野誉碑・恋女房染分手綱/仮名手本忠臣蔵・伊勢音頭恋寝刃
価格：１,５００円(税込・送料別)　※その他プレス盤も取り扱っております
お申込み・お問合わせ：義太夫協会
制作：SEIBI 工房

紋付 肩衣 袴 一式承ります
すいこう苑
コバヤシ
〒343-0044
埼玉県越谷市大泊249
TEL 080-1155-3942
FAX 048-975-2179
MAIL m-24-kobayashi-718@docomo.ne.jp

義太夫用三味線・張替、水牛駒・見台・湯呑、制作修理　その他、各流三味線及び付属品の御注文承ります。
きむら
〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-26-14
TEL/FAX 03-3466-2156
P.H.S 070-5457-5687

〈募集〉女流義太夫のプロ志望者を随時、募集しています。詳細は義太夫協会までお問い合わせください。

〈お願い〉「大日本素義会」関係の資料を調査しています。手放されたり廃棄されるご予定がございましたら義太夫協会までご相談ください。　（鶴澤三寿々）

会報編集　鶴澤津賀花・竹本越京
義太夫協会事務局
印刷　京成社

酒と器
押上文庫
〒131-0045
東京都墨田区押上3丁目10番9号
（スカイツリーから徒歩8分ほど）
TEL: 03-3617-7471
E-mail: oshiagebunco@gmail.com

昭和、平成、令和と
素義の先輩諸氏、そして
女流義太夫のみなさまの
熱い思いに支えられてきました。

一九六三年発足

GIDAYUU JOHRURI

日本素義会

まさに「継続は力なり」。
これからも日本素義会を
よろしくお願いいたします。

第百二十二回日本素義会、令和七年六月二十一日開催予定。